

今年も2年生が、かけざん名人をめざして、校内を駆けずり回っているようだ。子どもたちが持ってくる担任の先生お手製のかけ算カードは、毎年違う。これは担任の先生の個性▼子どもたちは、昇順、降順、バラバラと3つの方法で、九九に取り組む。最終的にはバラバラで言えることをめざす▼校長室にも時々来てくれる子がいる。子どものカードを見せてもらうと、たくさんの先生に聞いていただいているということが、カードに記されたサインからわかる▼このような光景は、きっとあちこちの学校で見られるに違いない。われわれは、全教職員で6年間子どもを育てるという意識をもって教育にあたっている。縦割班の担当の先生、掃除場所担当の先生、通学班の先生等学校生活の中でたくさんの先生が子どもに関わる▼1年の担任は、スタートを任せられた先生。6年の担任は、アンカーを任せられた先生なのだ▼ある先生が、卒業式の日の朝、他の先生方に「これまでらゆる場面で、6年間子どもたちを見守ってくださりありがとうございました。わたしは、最後のアンカーとして代表で子どもを点呼させていただきます。」と述べたことを思い出した▼6年生が褒められた時、担任に報告すると、「これまでの先生方の積み上げがありますから」と必ず謙遜するあなた。あなたも積み上げていますよ。全教職員で子どもを育てるこの感覚は教育名人だ。